

クエン酸第二鉄水和物と Ca 非含有リン吸着剤との効果の比較

医療法人衆和会 長崎腎病院

○江藤りか 中島さゆり 小嶺真耶 矢野未来 佐々木修 一ノ瀬浩 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

【目的】

新たなリン吸着剤として登場したクエン酸第二鉄水和物の効果を他のリン吸着剤との効果をクロスオーバーで比較する。

【方法】

リン吸着剤を1剤高用量投与している患者16名（平均年齢56.9±16.3歳、平均透析歴8.2±6.2年）において、文書で同意を得た上で、ビキサロマーまたは炭酸ランタンからクエン酸第二鉄水和物へ切り替え、2か月経過したのち、前薬に戻し評価した。また、前薬に戻した1か月後にどちらのリン吸着剤を服用するかを患者に選択してもらった。対象は、フェリチンが100以下かつリン値が6 mg/dL以上の患者とした。また、リン吸着剤単剤同士の切り替えを基本とするが、炭酸カルシウムは用量を変更せずに併用可能とした。また、切り替え時は、前薬の量に関わらず、1500 mgから開始した。

【結果】

クエン酸第二鉄水和物に変更することで、リン値が改善した群と不変の群に分かれた。改善した群では、投与開始時の平均血清リン値6.7 mg/dLから1か月経過後には5.0 mg/dLへと低下した。さらに、前薬に戻して1か月後にはリン値は6.2 mg/dLへ再上昇した。

患者が最終的にクエン酸第二鉄水和物を選択したのは6例であった。

【考察】

クエン酸第二鉄水和物は、他のリン吸着剤で効果が十分得られない患者のリン値を低下させる可能性がある。今回は2250 mgまでしか増量していないため製剤間の効果の対比は今後の課題と考える。